



## 2021年3月末の信用金庫の地区別預金・貸出金残高(速報)

— 2020年度中の伸び率は預金7.1%増、貸出金7.9%増 —

井上 有弘

### ポイント

- 2021年3月末の全国254信用金庫の預金残高の合計は、155.5兆円、20年度中の伸び率は7.1%増となった。貸出金残高の合計は78.4兆円、年度中の伸び率は7.9%増となった。
- 20年度中の貸出金伸び率が高い地区は、高い順に、東京(10.6%増)、近畿(9.0%増)、北海道(8.6%増)、九州北部(8.6%増)となった。
- 地区別に、20年3月末の企業向け貸出金構成比と、その後の20年度の貸出金伸び率を比較すると、企業向け貸出金の構成比が高かった地区ほど貸出金の伸び率が高い傾向にある。

### 1. 2021年3月末の預金・貸出金残高

本稿では、補正前計数を含む速報ベースの計数によって、2021年3月末の信用金庫の預金・貸出金残高を確認する。20年度末の全国254信用金庫の預金残高の合計は、155.5兆円となった。年度中に10.3兆円増加し、伸び率は7.1%増となった。貸出金残高の合計は78.4兆円、年度中に5.7兆円増加し、伸び率は同7.9%増となった。

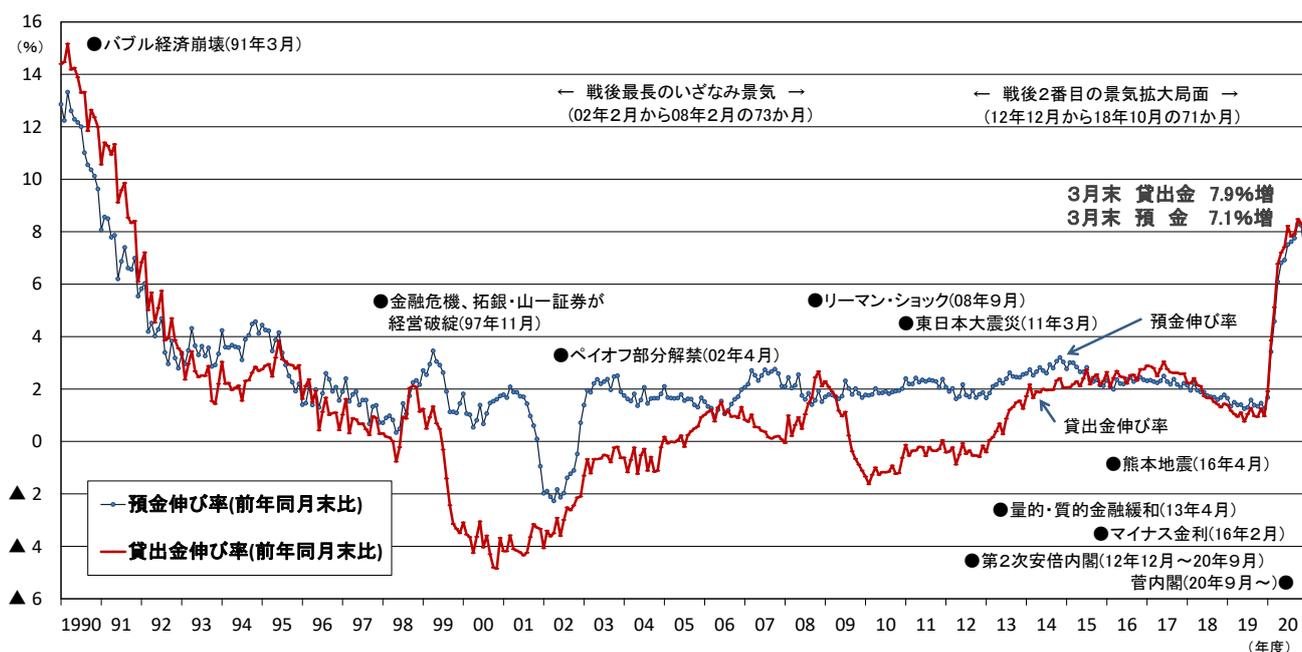
年度中の伸び率では、預金についてはバブル経済が崩壊した30年前の90年度の9.6%増、

貸出金についても90年度の12.0%増以来となる高い伸び率となった(図表1)。

21年3月末の預貸率は、20年3月末の50.0%から0.4ポイント上昇して、50.4%となった。

20年度の信用金庫の経営環境を振り返ると、初の緊急事態宣言が発令されたのが20年4月7日、21年1月からの2回目の緊急事態宣言が全面解除されたのが21年3月22日であるなど、コロナ禍で人の移動や経済活動が大きく制約された時期であった。

(図表1) 信用金庫の預金・貸出金伸び率の推移



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表2) 2021年3月末の信用金庫の地区別預金・貸出金残高(補正前計数を含む速報値)

(単位:百万円、%)

地区	預金残高		月中増減率		前年同月比増減率		貸出金残高		月中増減率		前年同月比増減率		預貸率	
		月中増減額	2021.3	2020.3	2021.3	2020.3	2021.3	月中増減額	2021.3	2020.3	2021.3	2020.3	2021.3	2020.3
北海道	8,084,265	-181,188	-2.1	-0.3	8.7	1.4	3,490,158	66,098	1.9	1.7	8.6	1.4	43.1	43.1
東北	5,838,411	-100,327	-1.6	-0.4	5.9	0.6	2,641,024	41,069	1.5	1.0	6.8	-0.9	45.2	44.8
東京	27,941,673	-171,227	-0.6	-0.6	9.5	1.2	15,548,918	59,706	0.3	0.8	10.6	0.3	55.6	55.0
関東	28,764,363	-467,665	-1.5	-0.7	6.9	1.6	14,247,494	36,936	0.2	0.8	6.7	1.4	49.5	49.6
北陸	3,927,760	-59,905	-1.5	-0.9	4.7	-0.1	1,761,687	2,083	0.1	-0.1	2.6	0.0	44.8	45.7
東海	32,962,233	-55,392	-0.1	0.1	6.1	1.4	15,771,359	102,210	0.6	1.2	6.7	0.4	47.8	47.5
近畿	32,444,699	-1,136,735	-3.3	-0.5	6.2	0.7	17,091,390	49,507	0.2	0.5	9.0	1.6	52.6	51.3
中国	6,631,564	-59,755	-0.8	-0.4	7.0	1.6	3,465,205	1,909	0.0	0.2	6.1	0.9	52.2	52.6
四国	3,042,810	-14,388	-0.4	-0.1	5.6	1.6	1,177,158	6,724	0.5	0.4	5.7	2.7	38.6	38.6
九州北部	2,601,284	-118,686	-4.3	-2.6	9.2	2.2	1,406,102	1,073	0.0	0.3	8.6	1.7	54.0	54.3
南九州	3,120,508	-39,536	-1.2	-1.0	7.0	0.7	1,696,855	1,261	0.0	0.1	4.9	0.8	54.3	55.4
全国	155,591,172	-2,397,565	-1.5	-0.4	7.1	1.2	78,458,487	370,498	0.4	0.8	7.9	0.9	50.4	50.0

(備考) 1. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成 2. 預金残高は、譲渡性預金を含めず。3. 沖縄地区は、全国に含む。  
4. 東京、関東、東海および中国地区は、各地区信用金庫協会資料にもとづく。5. 増減率および預貸率は、小数点2位以下切捨て

## 2. 地区別にみた預金・貸出金動向

地区別に20年度中の預金と貸出金の伸び率をみる(図表2)。預金伸び率が高い地区は、高い順に、東京(9.5%増)、九州北部(9.2%増)、北海道(8.7%増)となった。

貸出金については、伸び率の高い順に、東京(10.6%増)、近畿(9.0%増)、北海道(8.6%増)、九州北部(8.6%増)となった。

## 3. 地区別にみた企業向け貸出の動向

地区別に、コロナ禍が始まった20年3月末の企業向け貸出金構成比と、その後の1年間である20年度の貸出金伸び率を比較すると、企業向け貸出金の構成比が高い地区ほど貸出金の伸び率が高い傾向にある(図表3)。

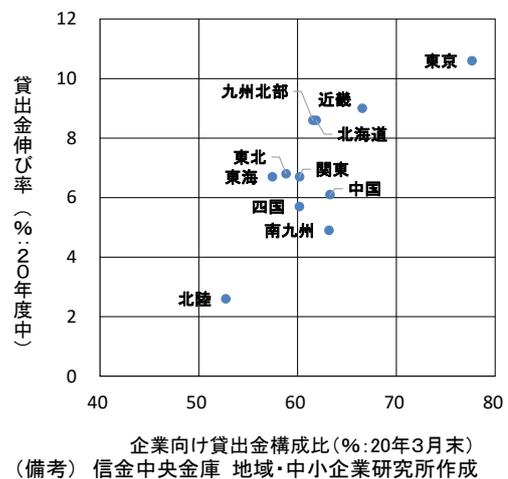
また、貸出先別データが把握できる21年2月末までの貸出金の年度初来伸び率を貸出先別に寄与度分解すると、各地区とも貸出金全体の伸びに対する企業向け運転資金の寄与が高い(図表4)。

こうした点からも、貸出金の高い伸びの主因は、中小企業向け運転資金の急増であることが確認でき、各信用金庫が20年度のコロナ禍において積極的に資金繰り支援を行ってきたことがわかる。

以上

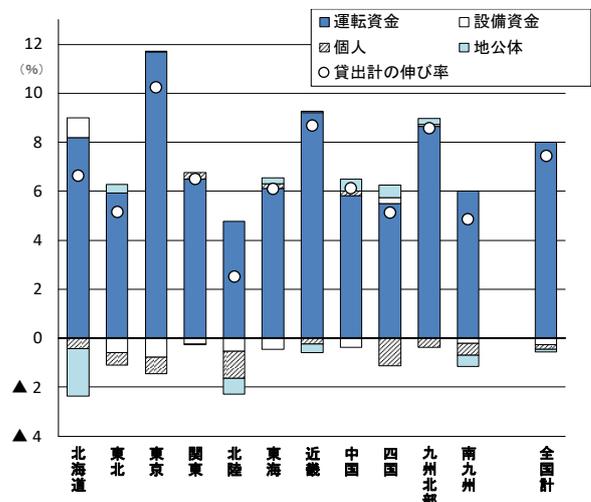
※「信用金庫地区別預金・貸出金(残高)」、「信用金庫預金、現金、貸出金残高(地区・都道府県別)」を信用金庫に還元しております。併せてご活用ください。

(図表3) 企業向け貸出金構成比と貸出金伸び率



企業向け貸出金構成比(%:20年3月末)  
(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表4) 地区別・貸出先別寄与度



(備考) 1. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成  
2. 21年2月末までの年度初来増減率の寄与度分解

本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。